



南小だより

【第10号】令和5年2月3日発行

【知育】 よく考えて勉強する子
【徳育】 思いやりのある子
【体育】 からだを丈夫にする子

さくら市立南小学校長 沼尾 昇

本号は南小ホームページにも掲載しています。メニュー→お便り

進級、進学がもうすぐです。

進級、進学まであと2か月となりました。子どもたちには、新しい学年あるいは中学校への意欲をもたせたいと考えています。意欲をもつためには、自分への自信をもつことが大切だと思います。そして、自信をもたせるためには、この1年間で、できるようになったことを実感させてあげることが必要だと考えています。学校でも、子どもたちにできるようになったことを伝え、大いにほめてあげたいと思っています。

どうかご家庭でも、この1年間で、できるようになったことを、ほめてあげてください。

それが、来年度の意欲にきっとつながると思います。



ねころび芝生で活動しています。

保護者の皆様、地域のボランティアの皆様のご協力により、整備することのできた、体育館北側のねころび芝生を活用して、様々な活動を子どもたちは行っています。

自然の中で、自由に思い切り活動することで、自然を体感し、自然を味わい、自然の大切さを知ってほしいと思っています。

そのことが、脱炭素社会やSDGsの考え方につながっていくものと考えています。

南っ子活動でのウォークラリー

昼休みの自由遊び



今年から新設されたねころび芝生クラブ

雪だるまづくり



自分の周りの人たちが幸せになれば、自分はずっとずっと幸せになれるんだよ。あの人のためにという思いがとても大切なんだよ。だから、やさしさや思いやりが大切なんだよ。くりかえし子どもたちにも伝えてきたことです。紹介したい手記があります。以前にも紹介しましたが、再度、掲載いたします。

○骨肉腫のために、右足を膝から下で切断、のちに肺に悪性腫瘍が転移したことにより、31歳という若さでこの世をさった医師「井村和清」氏。彼が、妻と娘、そしてお腹の中にいるまだ見ぬ子に遺した手記です。

ようやくパパと言えるようになった娘と、まだお腹にいるふたりめの子どもを思うとき、胸が砕けそうになります。這ってでも、もう一度と思うのです。

しかし、これは私の力では、どうすることもできない。肺への転移を知った時に覚悟はしていたものの、私の背中は一瞬凍りました。その転移巣はひとつやふたつではないのです。レントゲン室を出るとき、私は決心していました。歩けるところまで歩いて行こう。

その日の夕暮れ、アパートの駐車場に車を置きながら、私は不思議な光景を見ていました。世の中がとても明るいのです。スーパーへ来る買い物客が輝いて見える。走りまわる子どもたちが輝いて見える。犬が、垂れはじめた稲穂が、雑草が、電柱が輝いて見えるのです。アパートへ戻って見た妻もまた、手をあわせたいほど尊く見えました。

「ふたりの子どもたちへ」

心の優しい思いやりのある子に育ちますように。父親がいなくても、胸を張って生きなさい。私は最後まで負けない。お前達の誇りになれるよう、決して負けない。だからお前達も、これからどんな困難に遭うかもしれないが、負けないで耐え抜きなさい。
(中略)

お母さんを守ってあげなさい。二人の力で守ってあげれば、どんな苦勞だって乗り越えられるよ。そしてもし、死んだ後、お母さんが寂しがっていたら、慰めてあげなさい。

思いやりのある子とは、周りの人が悲しんでたらともに悲しみ、喜んでいる人がいたらその人のために一緒に喜べる人だ。思いやりのある子は周りを幸せにする。周りの人を幸せにする人は、周りの人々によって、もっともっと幸せにされる、世界で一番幸せな人だ。

だから、心の優しい、思いやりのある子に育てて欲しい。それが私の祈りだ。さようなら。私はもう、いくらもおまえたちの傍にいてやれない。おまえたちが倒れても、手を貸してやることもできない。だから、倒れても倒れても自分の力で起き上がりなさい。

さようなら。

おまえたちがいつまでも、いつまでも幸せでありますように。

雪の降る夜に
父より

出典 飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ―若き医師が死の直前まで綴った愛の手記 (祥伝社黄金文庫)

